

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者	
臨床薬理学	2年次 前期	必修	講義	1単位（30時間）	中原 努	
授 業 概 要						
<p>薬物の薬理作用や作用機序を理解し、臨床での応用について科学的に説明できるようにする。 臨床における薬物の有効でかつ安全な適用法について理解し、副作用の軽減策について考える。 この内容は、看護実践の上でも大変重要な基礎的な知識となる。</p>						
到 達 目 標						
<p>1. 医薬品に関する法律、医薬品の管理方法、添付文書の見方について説明する。 2. 薬物治療の必要性、有効性、安全性について説明する。 3. 代表的な疾患に使用される薬物の作用・副作用を説明する。</p>						
回	学 習 内 容				担当教員	
1	医薬品総論 医薬品とその作用原理ならびに適正使用				坂本 謙司	
2	中枢神経系作用薬(1) てんかん, 神経変性疾患					
3	中枢神経系作用薬(2) 精神疾患				中原 努	
4	中枢神経系作用薬(3) 睡眠薬, 麻酔薬, 筋弛緩薬					
5	感染症に使用する薬物					
6	抗がん薬					
7	がん性疼痛の緩和治療, 抗がん薬の支持療法					
8	循環系作用薬(1) 血液・造血器障害, 狭心症・心筋梗塞					
9	循環系作用薬(2) 高血圧, 心不全, 不整脈, 脳血管傷害					
10	抗炎症薬, 抗リウマチ薬, 抗アレルギー薬					
11	呼吸器系作用薬					
12	消化器系作用薬					
13	利尿薬と泌尿器・生殖器作用薬					
14	代謝性疾患に使用する薬 糖尿病, 脂質異常症, 骨粗鬆症, 痛風・高尿酸血症					
15	救命救急時に使用する薬					
学 習 方 法						
<p>予習・復習が大切である。薬物の作用を理解するには、生物学、解剖学、生理学の知識が不可欠である。 これらの知識を総動員して講義に臨むこと。不明な点があれば臆せず質問すること。 代表的な薬物の名称およびそれらの作用機序、薬理作用、副作用、臨床応用をセットで理解すること。</p>						
評 価 方 法						
〔評価方法〕 科目修了試験						
先 修 科 目						
なし						
教科書、参考書						
〔教科書〕 ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち〔2〕 臨床薬理学 第4版 古川 裕之、林正 健二 他 編 メディカ出版 今日の治療薬 解説と便覧 浦部晶夫、島田和幸、川合眞一 南江堂						